



Re live Journal

“りらいふ” ジャーナル

平成26年 初夏号

(7月1日発行)

ニュースレター版 13号

＜目次＞

- 私のロングステイ考（其の2） （元南国暮らしの会会長 会員 宮寄 哲郎）
- 団塊世代、古き良き少年時代のエコ生活を振り返る（その10） （会員 角谷 三好）
- 家庭菜園で野菜作り：健康の維持と趣味の実現（冬から春にかけて） （会員 山本 昌弘）
- 友集い、笑いの渦の落語会 （小柳 壮一）
- 関西支部からのお知らせ （関西支部長 阿賀 敏雄）
- 中国おもしろ話（其の2） （重慶師範大学外国語学院 日本語教師 松木 正）
- 「第4回和真式お気楽健康俱楽部」レポート （事務局）
- エッセイ・自分たち探し「ほのぼのマイタウンより」 （フリージャーナリスト國米 家巳三）

自国文化中心の目から世界の現実を正しく見る目を

- シリーズ「いまなぜブラジルなのか」（其の2） 川村栄太郎様講演記 （会員 植松 彰）
- 楠 和郎さんのマジックショー 2014.5.15 於ベル・ウッド （会員 植松 彰）
- “りらいふ” サロンのご案内「日本語教師でトクする話」 (“りらいふ” 塾 塾長 鈴木 信之）
- バリ コミュニケーション（6月号） （会員 平川 龍）
- ニュージーランド・クリストチャーチ レポート（6月号） （会員 島村 晴雄）
- バリ・ロンボク レポート（6月号） （会員 島村 晴雄）
- 自費出版図書館便り （事務局）

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14 芝栄太樓ビル 4F

VIPシステム内

●TEL 03-5733-2311 FAX 03-5733-3532

●e-Mail: info@retire.org ホームページ: <http://retire-info.org/>

●リタイアメントジャーナル: <http://retirement.jp/>

（発行責任者） 事務局 豊口 一美



1. 私のロングステイ考（其の2）

（元南国暮らしの会会長 会員 宮崎 哲郎）

前稿ではロングステイと云う定年後ライフスタイルの概念の発生とロングステイサークルの設立の歴史を纏めてお伝え致しました。

それが概略1990年から2000年の10年間の間に起こり、これを黎明期と位置づけ、本稿ではそれ以降の開花、発展と現在の状況をお伝えしたいと思います。

（1）各ロングステイサークルの活動

私は「ロングステイ」を便宜上大まかに3つのカテゴリーに分類出来ると思います。

即ち①移住派、②リゾート派、③渡り鳥派と名付け分けて見ました。

「移住派」はビザと不動産を取得又は賃貸により長期に海外に居住する。「リゾート派」は欧米流のバケーション



スタイルで2週間～1か月の長期旅行をする。「渡り鳥派」は国内を含め色々な国や地域を転々とする。これを前稿でご紹介した日本の代表的サークルの活動の原点をカテゴリー別に当てはめれば「ワールドステイクラブ」及び「ロングステイクラブ」は（渡り鳥派）「キャメロン会」は（リゾート派）「南国暮らしの会」は（移住派）であると私は思っております。



在地を限定してステイし楽しむ等でした。

現在もこの様な活動方向がメインですが少しづつ変化しております。

いずれにしてもこの様なコンセプトを持ったサークルを中心に2000年前後から定年退職前後の多く

この様に当初各クラブのロングステイに對する方向性はかなり異なっており、

・海外各国への長期滞在、移住、・海外へ

の企画旅行とボランティア活動、・目的滞

る、③多くの仲間が出来る事です

（2）ロングステイに関するマスメディア（新聞、出版社、TV）の活動

私の所属する「南国暮らしの会」の資料や経験から考察するに1998年頃から他のメディアより先行し「出版社」を中心に旅行作家など旅の関係者がいち早くロングステイの活動状況をキャッチし、読者に「図書」「雑誌の特集記事」として各国、各地におけるロングステイ情報を提供し始めました。私の会の過去の会報資料では‘98～’99年頃はやはりスペイン、イタリア、ハワイに関する本などでした



LONG STAY CLUB

ロングステイクラブ

国内・海外長期滞在・旅行の仲間

の方々が猛烈な勢いで組織的なロングステイ活動を開始し始めました。ロングステイサークルの最大のメリットは

①情報量が多い、②現地でケアが得られ



(マレーシア)

がそれ以降はアジア（マレーシア、タイ、フィリピン）関係が多くなり始め、当時の資料に依りますとその頃ほぼ毎月本及び雑誌の特集記事が発行されている様な状況でした。オビ曰く「海外で暮らせば、リタイヤ後がこんなに楽しい・・」「豊かな生きがいを求めて、世界を目指す・・」等々でしたが2006年頃までそのような状態が続き、殆どの週刊誌が特集記事を組んでいたことを覚えておりますが、あのピンク記事で有名な「アサヒ芸能」からも取材をされ、「ご自宅で読むのにはチョット！！」照れながら「お土産にどうぞ」と担当記者より発刊済週刊誌を数冊頂いたのには些か面食らった記憶があります。

雑誌、書籍に先行された新聞社、TV放送局はこれに遅れるなどばかりに活動を開始、新聞取材及びTV企画会社よりのアポイントが私の会にも月に何件と入り始めました。新聞では他社より「日経新聞」が力を入れており情報量も多く、中身も充実していたという印象でした。新聞は総じて現地取材ではなく「サークル」への取材とそこで紹介された現地滞在者に対する国際電話でのインタビュー記事が殆どでした。

視覚に訴えるTVは現地取材の企画と演出が相まってロングステイヤーに取ってはマスメディアの情報提供の中で大変効果的でインパクトがありました。



(フィリピン)

しかし定年後年金で暮らす人間が対象のため現地の「安い物価」、「プール付き豪邸」、「デラックスコンドミニウムの安さ強調」、「ゴルフプレイの安さ」など「こんなに安く日本では出来ない夢の様な生活」が演出されると云うTV番組の「ワンパターン映像」はその当時から有り、今もそれが引き継がれております。これらメディアの情報提供により益々ブームに拍車が掛かったようです。

不特定多数の対象者へのアピール力からすると新聞が最も大きく、次いでTVでした。この様なマスメディアのお蔭で当然一部の人だけでなく多数のロングステイ志向者が掘り起こされ各サークルの会員が急増する状態になりました。因みに「南の会」も2000年に300名だった会員が毎年増加し2006年には倍以上の650名になりました。

(3) ロングステイ滞在地の変遷（本項目では「ロングステイ財団」のデーターを使わせて頂きます。）

財団のロングステイ希望国ベスト10の1992年のデーターではハワイ、カナダ、スイス等々欧米が主流でありアジアの国はゼロ状態でした。これはまだ一定の長い時間滞在し「住む」と云うより観光旅行の希望地という意識しかない時代の日本人の気持ちだと思います。その後2000年よりやっとマレーシアが10位に入りその後2006年からは今年現在迄連続して同国が1位の様です。そして同じくアジアのその他の4~5か国（タイ・フィリピン・インドネシア・シンガポール・台湾）がベスト10の中に選ばれておりますが、これは当然すぎる結果であると思います。

前述の様にロングステイサークル設立と活動開始により、シニアが年金をベースにした楽しい生活を海



外でとなると生活費が「安い」、日本から「近い」、気候が「暖かい」そして「シニア向けロングステイビザ」が用意されている滞在地を選択する事となります。



これらの条件を満たす国となると裕福でかつ滞在条件の高いハードルを問題にしない方々は別にして、大半の人は必然的にアジア地域の中からの選択となるでしょう。私はロングステイ地の人気「御三家」(ベスト3)はマレーシア・タイ・フィリピンであり、今後も当分変わらないであろうと予測いたしております。そして滞在地として質の高いハワイ・オーストラリア・

(インドネシア)

ニュージーランドはリッチな「リゾート派」向け「ベスト3」として人気は継続するであろうと予想しております。

以上主として「海外へのロングステイ」、そしてそれが何時、如何にして始まり何が原動力になって発展してきたかを ①「ロングステイサークル」②「マスメディア」この2つの「大きな力」の結びつきに依って可能となった云う視点で捕えその歴史を総括してみました。

2000年の黎明期から2008年頃の発展最盛期、団塊の世代の方々の年金支給開始時問題(2012年)によるロングステイ熱の冷却ムードとマスメディアの報道後退、リーマンショックによる不安定な経済状況を経過しながら、円高の長期継続によるロングステイヤーへの追い風など色々な状況変化が起こり現在に至っております。



(ニュージーランド)

そして幸いな事にわたしの所属しているサークルは殆ど最盛期と同じ会員数を維持しており、ロングステイ希望者は決して減少していないと考えております。しかし直近の調査に依りますと前述「4サークル」の会員数に明暗が出てきているとの事、これは大変残念な状況ですが、各会のコンセプトとマッチングの問題が有るのではないかと推察しております。

今後の動向として海外ロングステイを「マーケット」ととらえて活動している各国政府観光局、及びロングステイ財団の活動が大きな鍵を握っていると思います。2013年ロングステイ財団が主催の「ロングステイフェア」が大盛況であり、シニアだけでなく20~40代家族の関心も多く賑わった様子を見ると、国内、海外のロングステイに良い情報提供と活動を大いに期待したいと思います。

次稿以下、今後「ロングステイのメリット」、「各滞在地の特徴、楽しみ方」「滞在地での介護の可能性」「各ロングステイ地の生活費比較」「中国人、韓国人シニアの動向」等々僭越乍らお伝えできればと思っております。

＜次号に続く＞



2. 団塊世代、古き良き少年時代のエコ生活を振り返る（その10）

（会員 角谷 三好）

◇春とともに

●「しょうで」の収穫（5の4）



五月の下旬から六月一杯、近くの里山に四月の初めに芽を出した萱が大きくなりはじめた頃、地元で言う「しょうで」を採りにいく。後になってアスパラ等がスーパーに置かれているのが気になって調べた結果、この「しょうで」牛の尾の形に似ているところから「牛尾出」と書いて「シオデ」と呼称されていて、別名「山のアスパラガス」と呼ばれていることが判明した。いわゆる野生のアスパラである。私は故郷を離れ就職し社会人になってから、スーパーなどに行くとグリーンアスパラが売られているので、初めは「しょうで」の品種改良された物だとばかり思っていた。

調べた結果、食べるとアスパラによく似ており、深みのある味はアスパラ以上に美味しい、「山菜の王様」と呼ぶに相応しいと、ものの本に書いてある。そして、王様にも関わらずよく知られていない「しょうで」、その理由としてまず自生量が少なく、さらに自然環境が変わると二度と芽を出さないという繊細な山菜らしく、今は山村でも開発が進んだこともあって、ほとんど見られなくなり、余程山深く分け入らないと収穫することは難しい幻の山菜になっている。

これは想像であるが、正式名「シオデ」を村では昔から呼び名が似通っていることから「しょうで」と呼んでいたのだと思う。

この「しょうで」、萱の生い茂る中に芽を出し大きくなるのだが、真っ直ぐに上に伸びるのでその姿は実際に凛々しい。人目に付かないで収穫されないまま大きくなったものは弦状になって、萱の上を這うような形になるので見つけ易い。しかし、何といっても気持ちの良いのは、まだ、萱が伸びる前に「しょうで」が二、三〇センチに成長したのを見つけた時だ。根元は強いで触って確かめ柔らかいところから手で折って収穫する。

「しょうで」はグリーンアスパラのように色は緑ではなく、茶系統の色が多い中でモスグリーンのようなものもある。

長靴を掃き濡れても大丈夫なようにぼろぼろズボンを纏い、萱の群生した山の中を歩き回ると、特に午前中だと萱にしっかりと夜露が残っていて下半身はずぶぬれだ。それでも一時間位あっちこっち探し回ると「びく」の中は結構な収穫となって、家に意気揚々と引き上げる。

食べ方は、アスパラと同じ、さっと湯がいて醤油をかけて食べる。あるいは、味噌汁に入れたり、他の野菜、肉や魚と炒めたりと調理法はたくさんある。そして、どういう調理法で食べても実に美味しい。その年





によって収穫量は違ったが、多く採れた時は一旦さっと塩茹でし広口瓶などに詰めて冬の保存食などにした。

当時はあんなに時期になると採れたのに、田舎に帰省した時に昔の山に入ったが、木が大きくなり、萱も短い丈となったそこにはたった一本の「しょうで」も見つけることは出来なかった。

本の中で触れられていた、自然環境が変わると二度と芽を出さない繊細な山菜であることが実証された想いで非常に寂しかった。山深くまで開発が進みセカンドハウスなどが建ち並ぶようになると、自然環境が破壊されて、「しょうで」等は絶滅し地球上から姿を消してしまうのではと危惧しているのは私だけだろうか。

● 「ぐみ」と「すぐり」を食べる（5の5）

六月、春の遅い北信濃にも田植えの季節がやってきた。家族総出で、人での足りない家には応援に駆けつけて田植えを済ませる。この頃、子供たちには自然からの贈り物が届けられる。それは民家の間を縫って流れている川沿いに点々と自生している「房すぐり」、「すぐり」、そして大きな「ぐみ」と小さな「ぐみ」が熟して、とりわけ普通の「すぐり」を除いて真っ赤になった実を揃いで食べることが楽しみだった。

「房すぐり」は赤く熟した物を房ごととて口に入れて、歯でしごくようにして粒だけを口に残して食べると甘くそして酸っぱくとても旨かった。



他方「房すぐり」に対して房にはなっていない大粒の「すぐり」は棘のある木にびっしりと生るのだが、色鮮やかな緑色をした実が紫っぽい色に熟すまでは時間がかかるので、私達子供は緑のままの実を採って食べる。酸っぱいが一年に一回しか食べられない自然の恵みを大いに堪能した。また、生の実を棘に気をつけながら採ってボール一杯位の量になると塩で揉んでしばらくしてから食べると、これが生で食べるとは違った円やかな味に変身してとても美味しかったことを覚えている。

そして地元では田植えの時期に食べごろを迎える「田植えぐみ」と呼ばれている小豆大の大きさの「ぐみ」、低木にびっしりと実をつけたものが赤く熟れるととても甘く、五、六個採って一緒に口に入れると自然の味が口に広がっていく。この小さな「ぐみ」の旬が終わりに近づくと今度は先の「ぐみ」よりはやや大きくて熟すると色も赤というよりは橙色に近い「ぐみ」が旬を迎える。まだ熟さないうちに待ちきれず採って口に入れると渋くて閉口した。

しかし、橙色に色づき熟したものを食べると、小さい「ぐみ」とは違い甘さは控えめだがその分酸味がある、今思うと大人の味がしたように感じている。たくさん食べて子供同士が舌を出し合うと舌には熟れても多少の渋が残っているのだろうか、舌に白いものが付着している。こうして、季節は初夏から盛夏へと移っていく。

＜次号へ続く＞



3. 家庭菜園で野菜作り 健康の維持と趣味の実現

(冬から春にかけて)

(会員 山本 昌弘)

定年後、健康の維持と趣味の実現を目的に家庭菜園を行っている。

冬の時期は専門農家などでは行っているビニールハウスなどを使わずに地植えで栽培できるものは比較的小ない。唯一可能なのは葉物野菜ぐらいである。小生の菜園では、葉物野菜を栽培するコーナーをあらかじめ決めて年中葉物野菜を栽培するようにしている。この時期にはコマツナ、ホウレンソウ、ラディッシュ、レタスを栽培する。越冬しても寒さに強い野菜であるからである。また、手入れもさほど必要なく、手間がかからない。唯ひとつ寒さよけに織布のネットを張ることぐらいであろう。年末ころの時期の畑作業としてイチゴの苗植えがはじまる。イチゴの苗は前年度に栽培した苗を活用して簡単に新苗を作れるので、新たに苗を購入する必要がない。イチゴはつる上に成長している。秋には、芽が沢山育つので、親の苗の根元から3個程度は使わずにそれ以降先の節を切り取って苗として育てる。苗の植え付けは、マルチシートを敷き、30cm程度離して切り取った節の部分を植えるようにしている。春になるとこの節から青々とした苗が成長して大きくなってくる。

冬期の畑作業は比較的に暇な時期になる。しかし、冬を越冬するために寒さ対策が必要になる。エンドウ、タマネギ、大根などは、風と寒さを和らげるようになっかりした目の細かい織布風のネットをはって防寒対策をやる。年を越すキャベツは1個づつ新聞紙で包み、風が直接当たらないように防御しておくと、年明けにもおいしく食べることができる。この時期の畑はどこの菜園でもネットと新聞紙で張られた風景がめにつく。今年の冬は例年になく2度も豪雪に見舞われ、雪落としが大変だった。除雪作業は重労働で、雪に慣れない我々には特に大変だった。雪国での除雪作業の大変さを痛切に感じたものである。

しかし、雪がやむと早めに畑へ出かけ積った雪の除雪が重要である。早く除雪をしてやらないと、雪の重さで野菜をいため、長く置くと折れてしまう場合もあるので危険である。今年は特に豪雪でネットを支える棒が何本も折れてしまい大変だった。

3月に入るとジャガイモを植える準備を始めなければならない。1月末には大根が終わりとなり畑は整理されているのでその後に植えるのが好都合である。ジャガイモは根深くに生育するので、まず畑を40~50cm程度深く耕し、石灰と腐葉土を十分にいれ土づくりをしておく。その後、ジャガイモを植える場所を深く掘り、化成肥料と鶏ふんを混ぜて散布しておく。その上を土で15cmほど埋めて直接肥料が当たらないようにしておき、その上にジャガイモの種イモを並べる。まず、ジャガイモの種イモを芽が分散する形で縦方向にカットして、カットした面に灰をつけて腐らないようにしておく。その種芋を灰が付いた面を

下にして35cm程度の間隔で植える。その上に10cm程度の土をかぶせて終了である。ジャガイモつくりは比較的簡単であるので、多くの人は沢山植えている。5月ごろに入ると芽が育つが、1つのジャガイモから複数個の苗が出てくる。大きなジャガイモができるように、目次きしてやる必要があるが、通常1個のジャガイモから3本の苗が出る程度にするため、なっかりした3本を残して他の弱い苗を引き抜く。このとき残す苗は根元を挟むようにしてなっかり押さえてから引き抜いて残す苗を痛めないようにするのが肝心である。

エンドウの開花風景



越冬景色の畑



ジャガイモの芽が成長





4月の終わりに近づくとエンドウの収穫が始まる。冬を越したエンドウは勢い良く育ち暖かくなると一瞬に成長する。花が開花して20日～25日が収穫の目安で、小生の菜園ではまずキヌサヤエンドウの収穫が始まる。続いて1週間程度

遅れて、スナップエンドウの収穫が始まる。エンドウの成長は非常に速いのでこまめにほぼ毎日収穫が必要である。特にキヌサヤは寿命が短く2週間程度で終わり、今年も5月中ごろには終了して、整理することになる。キヌサヤは肉厚が厚くなる前に収穫することが重要で、厚くなってしまうと皮が固くなり食べられなくなる。一方、スナップはふっくらと分厚くなつてから収穫するとおいしく食べられ、時間をおいてからでも硬くならないので長時間食べられる。エンドウの収穫は手間がかかり、体をかがめて収穫するので大変疲れる。収穫の作業は根気が要る仕事で女性向きであり、近所の畠では奥さん方が収穫に手助けに来ている風景が良く見られる。エンドウの収穫は両手を入れてハサミで切り取るのは簡単だが、そうすると枝を痛める。それでほかの枝を痛めないようにするために1本の手だけを入れて、1本の手の指先でカットするようにして収穫するのがよく、少しこツが必要である。今年はキヌサヤとスナップを夫々5本植えただけであるが、収穫期は沢山とれるので我が家だけでは処分にこまり、家内が友人などに配って歩くのが日課となっている。

今年はじめてソラマメ作りに挑戦している。4月ごろになると、背の高さが胸ぐらいに成長するので、6～7本程度に枝を整理し、さらに上に伸びないように50～60cmのところで上を切り取る。これは、新芽につき易いアラムシを軽減させる効果もあるようである。5月入ると花が咲いてそのあとソラマメが出来てくる。始めの時期には出来た豆は空をむいて成長しているのでソラマメというようであるが、大きく成長して下を向いて垂れ下がってくる。原稿を書いている5月の中頃は収穫期が近付いている。豆類の実を包んでいる殻を莢(きょう)と言われるが、上を向いた莢が下に垂れ、背筋が少し黒褐色になつたら収穫時と言われる。莢を触って大きな豆が確認できたら取り時である。この時期多くの

ソラマメが収穫できるので、ビールのつまみに持ってこいである。タンパク質が豊富で、飲み物をのみながらでは、いくらでも食べられる食材である。



ソラマメの収穫寸前

5月中旬に入ると、夏野菜の成長が始まる。夏野菜の生育は非常に速くあつという間に大きくなつてくる。今年も、ナス、キューリ、トマトの3大夏野菜、シシトウ、ピーマン、ズッキーニ、ニガウリ、モロヘーヤを栽培している。今年は、ズッキーニの生育は目覚ましく好調である。昨年はうどんこ病にやられ、折角植えたのだが途中で処分したので、収穫はほとんどできなかつた。ズッキーニはなぜこのような名前が付いているか不明だが、形は背が低く、グロテスクで日に日に大きくなり隣の野菜を侵食するくらいに成長して態度が大きい野菜である。今年は大きく育つおり、収穫が期待できそうである。家内が大好物で早く生育するのが待ちどうしい。



ズッキーニの生育状況

今年も夏野菜の収穫が始まる時期に近付いており、毎日が忙しくなり1年中で一番楽しみな時期が到来する。

(記 2014.5.20)



4. 友集い、笑いの渦の落語会

(小柳 壮一)



三若さんが、「この落語会も10回の記念すべき日を迎えることとなり、阿賀さんと何か記念品をと相談しました。そこで受付でお渡しした資料に赤い紙が入っていた人に記念品を差し上げることにしました」と舞台から話されると、かなり多くの方が真に受けて資料をめくり始められるのを私も目撃しました。三若さんが「冗談ですよ」のひと声で大笑い。



昭和生まれの高齢者は何と純粋なことか。

(甘い口説け話を信用して大金を巻き上げられるのは高齢者が多いことに納得)。

平成9年11月に豊中市のホテルアイボリーでスタートしたこの「りらいふ落語会」も5年を経過。大阪に「天満天神繁昌亭」という常設の寄席がオープンし盛況が続いているが、プロの落語家の噺を生で聞く機会案外少ないものである。主に高齢者を対象に、年2回定期的に開催され、しかも料金が千円とリーズナブルなこの会は貴重とさえ言える。



民主党政権で大臣を務められ、現在吉本興業の特別顧問をされている中野寛成氏の挨拶がありいよいよ本番。いつもは配布資料に残部がそこそこあるのに、今回は不足しあ渡しきれなかった方がかなりあるという超満員。桂三若、桂枝女太、月亭ハ斗さんが、時事ネタから創作、古典と、それぞれが個性豊かな話芸で、

客席は終始笑いが絶えなかった。落語を聞いても、頭の回転が鈍りかけている高齢者は、「今の噺どこが面白かったの?」ということも無い訳ではない。三人の

演者は高齢者が多いということも踏まえてか、とにかく歯切れの良い口調で話されるので、笑いから取り残される人がおらず、全員が一斉に笑うので楽しい。

主催者は一応10回ということでスタートされたようだが、これだけ好評の会を終わらせるのはもったいないし、三若さんもやる気満々で、20回、30回と続けられることになったのは嬉しい限りである。もうひとつこの会の特色を付け加えると、普通の寄席の客は不特定多数であるが、この会では高校や中学の同窓とか会社が同じとか、飲み仲間といった何らかのつながりのある人が多く、クラス会的雰囲気が漂うことである。リタイアメント情報センターの存在意義ここに有りという感である。



会場準備、演者との打合せ、資金面での苦労等々、舞台裏にあって関西支部長の阿賀敏雄氏の御尽力は大変なものであり、またそれを支えて下さっている支援の方々に感謝申し上げます。



＜短歌3首＞

落語会 八重の花舞う景色似て きらめく話芸に笑いの渴が
りらいぶの 落語を聞くは歎びか 笑いの中に明日への力が
三者の 落語の奥の深きこと 人の生命の重さにも似て
いのち

秋良

5. 関西支局からのお知らせ

(関西支局長 阿賀 敏雄)

関西支部では7月、8月以下の行事を予定しております。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

◆「豊中の歴史を語る——なるほど・やっぱり・そうだったのか——」

日時…7月10日 (木) 15時～16時39分

講師：瀧 健三 (前 豊中市立教育研究所長、元 豊中市立克明小学校長)

会場…ベルウッド

参加料金：1000円

◆「何事も創意工夫——人生楽しく面白く——」

日時：8月8日 (金) 15時～16時30分

講師：角井 博 (川西市木工芸協会会長 89歳にして元気溌剌)

会場…ベルウッド

参加料金：1000円

＜キヨウヨウ・キヨウイク・エイヨウで人生を楽しく仲良＜＞

関西支局長 阿賀 敏雄 090-1896-4575)



6. 中国おもしろ話（其の2）（松木 正 重慶師範大学・日本語科教師）

私は中国の西南に位置する重慶市(中央政府が直接管理する直轄市で、他に北京市、上海市、天津市がある)で日本語教師として、かれこれ6年目を迎えます。私が在任中に見聞きした”中国の面白ネタ”をこれからいくつか皆さんにお届けします。

第2回 「中国人はなぜルールやマナー、約束を守らないのか？」

中国に仕事でも旅行でも行ったことがある人なら経験があると思いますが、中国人って本当にマナーが悪いですよね。手で鼻をかむ、タンを吐く、トイレを汚す（そもそもトイレが汚れている）、タバコやゴミをポイ捨てる、順番は守らないなどなどあげたらキリがありません。毛沢東による文化大革命以降、この国は仏教も、儒教が説く「礼節」も何もかも忘れ去られ、現代の中国人は家族以外の人は誰も信用していないという印象があります。

先日北京で長く日本人学校の先生をされていた日本人のテニス仲間と、なぜ中国人はマナーや約束を守ることが出来ないのか？という議論になったのですが、私たちの議論は「罪」「恥」「損得」という3つのキーワードに落ち着きました。この3つのキーワードは、「欧米人」「日本人」「中国人」それぞれのマナーや約束に対する考え方を指しています。欧米人のベースにはキリスト教の教えがあり、ルールや約束をやぶると言う事は神に対する冒涜であり、人間は常に神の救いを求めなければならない。その罪と言う意識から彼らはルールや約束を守ってきました。

また日本人であれば団結や共同体を大事にします。協調がベースでチームプレーが求められ、「人に迷惑をかけてはいけない」「人と違う事をしたら恥ずかしい」という意識から道徳が守られ、守らなければ「恥」をかくという意識があります。

では中国人はどうでしょうか？彼らは決してマナーや約束を守れないわけではありません。マナーについてはまともな教育を受けていない農民工の人たちが都会には大勢出てきているので、そもそもマナーって何？なんでタン吐いたらいけないの？という人は確かに沢山いますが、そんな彼らでも約束の守り方くらいは知っています。

ではどんな時に彼らは約束を守るのでしょうか？それは自分に利益やメリットがあるときです。約束を守ることが自分にとって得であれば、彼らは時間も約束もキチンと守ります。逆に自分にとって得にならないと思えば、最初から約束を守る気なんてありません。適当に「没法子（しょうがない）」、「可以（いよいよ）」といってその場をごまかします。

悪く考えれば「中国人ってなんてひどいんだ！」となります。逆に良く考えると彼らの行動は実にシンプルでわかりやすいとも言えます。最近、こんな例もありました。現在の重慶はあちらこちらで道路工事が行われており、一週間も留守していると、今まで使っていた通りがなくなっていたり、通行禁止になっているなどということがよく起こります。

ついこの間までOKだったはずの信号付き横断歩道が突然廃止され、道路の上にあっという間に歩道橋が架けられました。ご丁寧に道路には渡れないように、柵まで設けられたのです。ところがそれからわずか数日後、柵は見事に凹まされ、みんなそれを飛び越えて平気で車の間を渡って行きます。めんどうな歩道橋を使う人はまばらです。『上に政策あれば、下に対策あり』という言葉が今の中人の常識のようです。



7. 第4回 和真式お気楽健康俱乐部を開催

(事務局)

5月23日(金) 午後7時から、りらいふサロンにおいて、第4回和真式お気楽健康俱乐部を開催しました。



前回から、リタイア世代のみならず、幅広い年代の参加者と、身体を通して交流してみようということで、時間を夜に変更してみたところ、今回は女性2名に、20代の男性参加者もあり、身体感の違いをさまざまな角度で知ることができました。
講師は和真クリニック院長の福井和彦医師です。

この「和真式お気楽健康俱乐部」のテーマは、筋力に頼らなくても、筋トレしなくても日常生活の中で人間本来の能力を認め、引き出せるようになることで、和真という意味は「無理なく、無駄なく、

ムラなく、からだ(身・心)全体を調和を保って活かす」という事です。

今回は、開場の床に莫蘆を敷き、寝転がった姿勢で、簡単な動作ですが、自分の身体のバランスを感じ取れる様々な動きにチャレンジしてみました。

たとえば、二人で組になって、相手の足首を持って揺らしてみると、リラックスしているはずなのに無意識に抵抗したり、力んでいる部分があることがわかります。

また、うつ伏せになって、膝を曲げてみて、自分では真直ぐ90度に立てていると思っていても、思うようにできていないことや、足首の角度なども微調整できないことに気づかされます。



こうした力みや歪みは、日常生活の中で、知らず知らずのうちに蓄積され、やがては様々な故障や痛みとなって現れてくるのですが、そうなってからあわてて医者に頼るのではなく、日頃から自分で体の調整ができていれば、深刻な事態を避けることもできるはず。

これまで、身体の状態をチェックするための動作を遊びながらやってきましたが、これからは、自分で

できる調整法などについてもアプローチしてみたいと思っています。

●次回の和真式お気楽健康俱乐部は、

7月25日金曜日、午後7時～、会場はりらいふサロンの予定です。

●会場 “りらいふ” サロン 〒103-0013 東京都中央区人形町



1-19-9 古暮ビル4F

都営浅草線・人形町駅下車 徒歩1分 ●日比谷線・人形町駅下車 徒歩2分

半蔵門線・水天宮駅下車 徒歩5分

＜地図＞ http://www.mapion.co.jp/m/35.68270067_139.78544114_10/



8. エッセイ・自分たち探し 「ほのぼのマイタウンより」

自國文化中心の目から世界の現実を正しく見る目を

(フリージャーナリスト 國米 家巳三)

ちょっとむずかしい言葉ですが「エスノセントリズム」というのがあります。ものの本によると哲学用語に分類されていて、「自民族中心主義」と訳されている。ただ、この訳語では、イマイチよく分からぬところがあります。

そこで先日、大型の図書館にてかけてコンクリートブロックのような大きな重い辞書で調べてみました。するとありましたよ、エスノセントリズムとは「多民族やその文化を自己の文化を基準に判断する傾向」。これなんです、いま世界を覆っている流れはー。

中国雲南に西双版納（シーサンパンナ）という地域があります。そこはブタだらけの村がいっぱい。農家はみなブタを飼いますが、飼い主からあふれたブタが野生化し、村の至るところで自由奔放に生きている。村に市が開かれると人が買い物をするように、ブタもやってきて食い物をあさるのです。日本の女流カメラマン、Tさんは、なぜかそんなブタに魅せられ現地に長期滞在して撮影に精をだしていました。ある日、村の古者がTさんに話しかけます。

「東京にはブタはどれくらいたくさんいるのかね。えっ、いないっ！日本は豊かな国だと聞いていたが、実際には貧しいんだな。どうか、だからあんたもそんなに瘦せて細い体なんだ（Tさんは、スリムなボディが自慢なんですか）。かわいそうに、うちの村でしっかり食べて太って帰りなさいよ」

これは素朴なエスノセントリズムですが、3・11東日本大震災の被災者が力死に一生のなかで整然と、お互い助け合いながら生き抜く姿をみて、中国の有名なメディアが「あれは教育の効果」と書いた。彼らにしてみれば北京五輪の前、「行列に割り込むな、路上でツバを吐くな、裸で街を歩くな」と巨額な費用を投じて大キャンペーンを繰り広げた。それによって五輪はまあまあ無事にすませた。その経験からのエスノセントリズム。しかし東北の被災者は別段「略奪するな、暴動するな」と教育を受けていたわけではありません。日本人の背骨にある生来のDNAが世界を驚かせるような整然たる避難を生んだのです。

一方、アメリカ。安倍首相が集団自衛権を導入したい、憲法を改正したいなどというと、「日本が右傾化している」と騒いでいます。以前から米国の一派に、「原爆を落とされた日本は、いつかアメリカを報復爆撃する」といった声が絶えません。そのために米軍基地を置いて日本の軍事力台頭を抑えねばならぬと、いわゆる「ピンの心た論」がまかり通っていました。逆に自分たちアメリカ人が原爆を投下されたら必ず報復するぞ、と宣言していることになりますが、これまさにエスノセントリズム以外のなにものでもない。

かくいう日本はどうか。少しばかり米中とは趣がちがいますが、やはりわが国なりにエスニセントリズムという業病に取り憑かれている。日本人は、総じて性善なる民族です。だから世界中がみな性善だと思っている。この世には性悪（しょうわる）な民族など存在しないのだと。「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と憲法に明記し、それを70年近くも金科玉条として大事にしてきました。自分たち日本人が引き起こさない限り戦争はないのだ信じている。

せっかくグローバリズムの21世紀が到来しているのだから、人間のリアリズムを無視した理想やイデオロギー、自國中心のワクから脱して、世界大の目で各國の文化や民族性を正視するようにしたいものです。また、世界には、残念ながら根っから性悪な民族が存在している。それから目をそらさずしっかり備えることも、日本にはとくに欠かせない課題だと思います。

こくまい・かきぞう 元産経新聞記者・東久留米市在住



9. シリーズ「いま、なぜブラジルか?」 (其の2)

講演者 川村栄太郎様 2013.12月 於ホテル・アイボリー (会員 植松 彰)



出発の記念写真

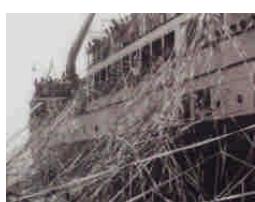


神戸の移民センターの前で撮った写真、いよいよ出発の日の朝、すべての準備を終え、全部で 200 人ぐらい、ほとんど家族構成です。不安とまだ知らぬ世界での生活への憧れなどが混在していました。前から 3 列目の右端が僕です。



55 年前に出発したときの搭乗券

オランダの船、Royal Intercean Lines 社 チャレンカ号 (15,000t) の搭乗券です。



出港の風景

出発のテープを握っている風景…。岸壁を離れてよいよ日本との別れ… 最近はこういう風景はあまり見かけないです。この時はすごかったです。神戸市の消防音楽隊の「螢の光」の演奏に送られて船は出て行く…

船室は船底の蚕棚、仕切りは四方カーテンです。この船はオランダの船ですが働いている一般船員は中国人…日本ではひもじい思いをしていたのが、船中では 1 日に 6 回ぐらい食事を出してくれるので。58 日の旅路を終え、8 月 12 日に目的地サンツ港に着きました…。

サンパウロでの日々の写真 (1 回目の移住時)

McCann Erickson 国際広告会社のブラジル支社幹部と(2 度目の移住時)



(45 歳頃):これは付録ですがマッキン・エリクソンというアメリカの大きな広告会社のブラジル支社の社長と担当幹部です。一緒に仕事をしていました。主に TV 広告フィルムの制作。



ここで一息 リオのカーニバルについて



これはすごいエネルギーな風景です。エスコーラ・デ・サンバ (Escola de Samba) といって数千人単位の大規模なサンバチームが幾つもあり…カーニバル期には金曜日の夜から始まって水曜日の朝まで続きます。チームが順番に出演するのですが… 音楽や踊り、衣装、装置、表現力などを競います。一番高い評価を得たチームが優勝し、大きな名誉を獲得するのです。詳しく話し出すと時間が足りません。



ここでもう一息 小野田寛郎(1922-2014)さんご夫婦について

フィリピン・ルバング島に27年間一人で居られて日本に帰ってきて政府が慰労金を出したのですが自分が受け取ることを拒否し、靖国神社に奉納された。

日本に帰って翌年にはブラジルへ移住されました。ブラジルで小野田牧場を経営され、日本でも子ども達の犯罪を防ぐために、健全な日本人を育成したいと小野田自然塾を創られています。小野田さんご夫妻と我々夫婦が一緒に食事をしながら一日過ごす機会がありまして…とても穏やかなご夫婦でした。良い思い出になりましたので触れておきました。2004年日本人として初めてサンツス・ドゥモン勲章(ブラジルで民間人に与えられる勲章の最高位で日本人では初めて)を受賞されました。2005年には日本の藍綬褒章を受賞されています…。

*2014年1月16日小野田さんが亡くなられた。91歳 心からご冥福をお祈り申し上げます。

シュハスカリア



これは代表的なブラジル料理でシュハスコという焼肉料理、塊のまま串に刺した肉を岩塩のみで焼き上げる、ブラジル式のバーベキューです。大阪では心斎橋の元ソニービル8階に本格的なブラジル料理店があります。本当は炭でゆっくりと半日かけて焼くカルネ(肉)は誠に美味しいです。それにはブラジルのお酒、カシヤッサのカイピリニヤが合います。



《ここから本論に移ります》

いま、なぜブラジルなのか?

2012年度のブラジルの一人当たりの国民所得は\$11,358。これでも世界の61位です。日本は12位(\$46,706)、韓国は35位、中国は88位(ブラジルの約半分)。

2011年のDGP(国民総生産)の大きさは世界第6位になりました。このことはブラジルにとって大きな変革です…

僕は1992年までブラジルで住んでいましたが、1964年からの軍事政権下では「ブラジルの奇跡」と呼ばれる急成長を実現。しかしオイルショック以後、対外収支が悪化、巨額の累積債務問題が表面化し、83年にはIMF管理になり、85年民政に移管し、次々インフレ対策を打たれるが好転せず、ついにモラトリアム宣言に至りました。インフレは年率3,000%に至り、経済は大混乱。時の財務相カルドーネが94年に1レアル=1米ドルの「レアルプラン」を提案し、ようやくインフレ終息。引き続きカルドーネは国民の信頼を得て、二期大統領を務め、経済開放政策で積極的に外資を誘致し、一方格差是正にも努めました。

その跡を継いたのが、4度目の大統領選挙挑戦でルーラ大統領が就任しました。労働党指導者で左派系であったため、内外で政策転換を心配されたが、ルーラ政権はカルドーネ政策を踏襲し、経済界からの信頼も得て貧困対策として「ボルサ・ファミリア」を実施しました。この政策は子供を就学させることを条件に、一定の貧困層に現金をばら撒いたのです。これで4000万人の中間所得層が生まれ、内需を拡大し、GDPを押し上げる要因となりました。この人口は韓国・スペインの人口に匹敵するものです。

ルーラ大統領は2期8年務め、今のジルマ・ルセフ大統領(女性)へ継がれています。

BRICs

アメリカの証券会社ゴールドマン・サックスが2001年11月30日に投資家向けに作成したレポートの中で用いたのが最初…「ブリックス(BRICs)」というのですが、今は南アフリカを入れて5つの国を注目の新興国と見なされています…ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカ…。このブリックスの中でブラジルはどこが違うのか…

1: 政治体制: 民主主義が定着している。選挙で選ばれていて一党で支配している国とは違う。

2: 社会: 世界一の多民族国家で人は世界中から集まっている。しかし人種、民族、宗教の争いがない、



3：経済体制資本主義が徹底していて外貨と共存しており差をつけない。ただ経済状態を危惧して日本の企業では進出したり撤退したりしていますが、本来は外貨に対して差別をしないで共存しています。法体制も完備している。

4：周辺国との係争が一切ないということです。…これがBRICs の中でブラジルの大きな違いです。

例えば1番の問題ではロシアでは大統領権限が大きくてやや透明性に欠けるとか…中国では一党独裁で政治決定に透明性が欠ける。2番目の問題としてロシアはイスラム系の民族、旧ソ連圏との争いがいつも起こっている。インドの場合はカースト制がまだ続いている。最近の中国では貧富に対する不満が充満している。また、外貨が安心して活動できない…こういったことがあります。

ブラジルの国力を創っている大きな特徴…

無尽蔵の地下資源…

僕がブラジルで生活した時の体験ですがサンパウロから 600 km離れたミナス・ゼライス州の首都ベロ・オリゾンテに旅行したとき、小高い山がピカピカと光るのです。これは純度 60%を超える鉄鉱石を露天掘りしている風景です。…。

ロシアと共に世界最大の資源国で鉄鉱石の輸出は世界一です。日本も勿論大量輸入しています。しかし最近は中国の輸入量が大幅に増加しているのです。ブラジルのGDP を押し上げた一つの要素はこの鉄鉱石の値段が影響しています。(最近少し落ちているため成長率も下がっている…)

鉄鉱石のみならず、多種多量の地下資源を有し、超電導材ニオブ（レアメタル）の生産も世界の 90%を占めています。

もう一つ大きな発見は、ブラジルの石油会社ペトロプラスが 2006 年、リオ沖合 300 km、水深 6000m の超深海で「プレサル」岩塩層下の幅約 200 km の大油田を発見、いまその開発を進めていることです。この海底油田を採掘するブラジルの技術は非常に進んでいます。また日本の大手企業もこれに参画して技術を提供しています…

僕がブラジルに最後にいた当時、まだ石油の需要の多くは輸入に依存していました。しかし、30 年前から海底油田開発を進め、2006 年(平成 18 年)遂に石油自給率 100%を達成しました。近い将来は石油輸出国になるだろうと言われています。埋蔵量は現在確認されているだけでも世界で 14 位ですが、プレサルの埋蔵量を加算すると、リビア、ナイジェリアなどを抜いて 8 位の産油国となる。OPEC 入りも視野に入れているでしょう。

また、アフリカの西海岸にも同質地帯があり、ペトロプラスはアンゴラやナイジェリアで「プレサル計画」を進めています。

超深海油田プレサルの開発（採掘・保存の基地）

写真はプレサル鉱区の開発に使用される FPSO(浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)で日本の大手企業の技術も買われている。



有数の農業大国ブラジル

資源大国であるとともに、農業大国であることをよく認識下さい。僕は将来安定して食べ物を供給してくれるのはアメリカとブラジルではないかなと思っています。ブラジルは可能性が大変大きいのです。日本の 22.5 倍ある土地で寒冷地帯も山岳地帯も大砂漠もありません。海拔 200m 以下が 41%、熱帯・亜熱帯が国土の 80% で年中農牧に適している。そして地球上の世界の淡水の(アマゾンの流域が多い)20%がブラジルにあるのです。

世界の農産物の輸出ランキングをみますと…(2011 年)

砂糖・コーヒー・オレンジジュース・牛乳・牛肉・タバコ・鶏肉・アルコール などが第 1 位です。2 位としては大豆・大粒など。日本の食卓と関係が深いものとしてオレンジジュース(日本の需要の 80% はブラジル製)・鶏肉・コーヒー(同 35%)など。ブラジルの最大の特徴は生産余力があることです。現在耕作可能地域の約 20% の利用で(国土の 7%)、まだ無限に近い地域を耕地に開拓できる。

日本はこの農地の開拓・土壤改良に大貢献したのです。1974 年当時の田中角栄首相が、セラード(閉ざされた)開発支表明をして、1978 年から始まった巨大プロジェクトです。ODA 資金: 279 億円と農業技術をもって、酸性度が非常に高い土壤で農作物が出来なかった不毛の大地を、地質改良し、日本国土の 5.5 倍の世界最大の穀倉地帯に変貌させた、日本とブラジルの官民合同で行った国家プロジェクトです。これがブラジル国土の 24% に当たります。

セラード開発前のブラジルは大豆輸入国だったのが、今では米国と並ぶ世界最大の輸出国になりました。今ではセラードで作った大豆の 60% 以上を中国へ輸出し、中国の食糧事情をかなり助けています。

このプロジェクトは農学史上「20 世紀最大の偉業」、又は「奇跡」と評価されています。また日本・ブラジルが共同で地質のよく似たアフリカのモザンビークで熱帯サバンナの農業開発を進めています…。



バイオエタノール・石油代替エネルギー開発の進歩

外貨事情を極度に悪化させていた燃料事情の改善を前提に…1973年から「国家アルコール計画」をスタートさせ、サトウキビから車の燃料を作るために開発したのがバイオエタノールです。ブラジルの空港に着きますとなんとなく甘い匂いがするのは排気ガスが原因かと思っていました。最近は品質も改良され、匂いも軽くなってきています。

ちょっと、余談になりますがハイパーインフレの話をしましょう。

原油を輸入していたときオイルショックで急にオイルの値段が上がり、大変な経済危機になり超インフレを経験しました。超インフレの生活というのはスーパー・マーケットでの朝と夕方の値段が変わっているのです。月給とかタクシーの運賃は毎月換算表に基づいて計算しました。例えば政府が換算係数1.8と発表すると、給料は1.8倍となる。タクシーの運賃も同じです。…

「物価スライド制」…だから給料をもらった人は、その日の内にスーパーへ行くのです。1カ月分の食料品や日常必需品等を買い集めます。現金は信用せず、モノに換えるのです。給料日直後は、どこのスーパーも買い物客で大混雑。

1980年代後半になると新車の90%はアルコール車になりました。

車の燃料が無くなつてエンストを起こしたら酒屋へ行って酒(40~50%)を入れたら走り出すと、事実は知りませんが、冗談だけではないと思います。2007年ごろから本格的に売り出されたのがガソリンとバイオエタノールのどちらでも走れるフレックス燃料車です。現在も新車の生産の90%はフレックス車です。日本でも計画がありましたが中々前進しないようです…。

ここでブラジルでの出来事で「感動した話」を紹介します。

① 2004年9月小泉首相がブラジルを訪問された時の話。これは聞くごとに胸が詰まります。

ブラジル政府がバイオエタノールを日本に売り込もうとしてヘリコプターでエタノール工場や農場の視察に向かったときのこと…

移民発祥の地グアタパラ移住地の上を通過するそのとき、下を見ると日本語で「カンゲイ小泉首相」と石灰でグランドに書かれた大きな文字を発見、実は総理がヘリコプターからグアタパラ移住者の無縁仏のために花束をそっと投げる予定でいたところ、その光景に感動し、元首相自ら急遽着陸してもらえないかと頼んだのです。ヘリは日伯両国旗と鯉のぼりを立ててあったグランドの隣のサッカー場に着陸。小泉首相、サンパウロ州知事、在ブラジル日本国大使などがヘリから降り、突然のヘリ着陸に、移住者は全員バンザイ！ バンザイ！ と叫びながら駆け寄り、手を振って待っていた約百名の移住者全員と握手、記念写真を撮り、涙と大きな感動を与えられた。総理は持参した花束を移住者の代表者に渡し、無縁仏へと飾られました。その時の話を翌日の日本人が集まるサンパウロ市のブラジル日本文化協会主催の約1300人が集まる会場で講演され…「上空から花束を投げるなんて、そんな失礼なことは出来ませんよね」との話の後、しばらく昨日の出来事を思い出し、突然声が出なくなり涙を流された…。その後小泉総理は時々ブラジルを訪問されています。日伯関係のためにいろいろと尽力されています。ご親戚が戦前に移住されているようです。

② ルーラ大統領(ルイ・ペソア・ルーラ・ダ・シリバ)

この人は左翼系の人で、小学校しか出ていないのです。バイア地方といって東北の貧しい地域の出身で、子どものころにサンパウロに出てきて、初めて仕事に就いたのが日本人の洗濯屋さんだったと聞いています。(移住当初の日本人は農耕か、あまり技術を要しない洗濯屋さんが多かったのです。)



ルーラ大統領が日本移民の記念式典に出席すると日本人のことを称賛して、「日本人はブラジル建設のために尽力してくれた。日本人は正直で勤勉である」と強調しています。

③ ブラジル航空隊の斎藤さん(ニセゾ・ユンケ・サトウ)が空軍総司令官に就任した時に大統領はじめ政府の高官の前で「自分は日本人の血を引いていることを誇りに思う」と挨拶すると、大統領はじめ出席のみんなが手をたたきしばらく鳴りやまなかったと…。信頼しているからです。

以上のようなことが日本とブラジルの歴史の中にありました。



ブラジルは南半球では最大の工業国である…

自動車産業

55 年前に移住した頃、既にサンパウロからサントスへの高速道路、アンシェッタ街道の両側には世界の有名な自動車メーカーの工場が軒を並べ「世界の名店街」と呼ばれていました。ブラジルにはフォード・GM・ワーゲン・ベンツなど…世界の自動車メーカーが工場を連ねていました。

2012 年、ブラジル自動車市場は 380 万台を売り上げドイツを超えて世界で第 4 位(中、米、日、伯)。工業製品税を 50% 減税し国内生産を優遇、輸入税を 30% 引き上げたための効果で、輸入車は下降。韓国車は -50%、中国車の輸入は -90% と言われている。

ブラジルの産業界の技術は、基本的には欧米の技術の集積で先端技術は外貨が持ち込んだものが主体ですが、独自のブラジル生まれの優れた技術もあります。



まず、飛行機製造会社のエンブラエル社…エアバス、ボーイングに次いで世界第 3 位です。サンパウロから約 100 km にあるカンボスという所に工場があって一流の大学卒の若者を育成しています。つい最近まで副社長をしていたのが日系人二世です(サト・ヨコ)。また中でも、中・小型機の受注数は世界第 1 位。日本でも 2007 年に JAL が 10 数機購入しましたし、もう一社も何機か購入しています。今では伊丹空港からもエンブラエル社の飛行機が飛んでいます。バイオエタノール…サトウキビから取るアルコール…自動車の燃料になっています。

深海海底油田開発(プレサル)の採掘技術

もう一つは水力発電…イタイプー水力発電で見られる大型土木工事があります。(これは黒四ダムの 40 倍分の発電能力を持つ)。有名なイグアスの滝の近くにあります。中国の三峡ダムの水力発電が、2009 年に完成し世界最大となったので、イタイプーは第 2 位の規模です。

それからもう一件、2006 年 6 月日本式地上デジタル放送システムをブラジルが採用したのです。(2007 年に放送開始) それだけではなくて南米全体に「日本・ブラジル方式」として拡大しました。さらにアフリカまで売り込みに行っています。2010 年 6 月にはアジアで初めてフィリピンが採用しています。2011 年 10 月にはモルディブ(国営放送)が採用…2013 年 7 月にアフリカ初でボツワナが採用…

ブラジルの世界一あれこれ

砂糖生産・輸出量は世界一。コーヒー生産量は世界の 3 割を占めています。

オレンジジュース生産・輸出量:世界の 55%、日本での需要の 80% 以上はブラジル産、鶏肉輸出量は世界一。輸出先トップは日本。牛肉の生産量は 2 位ですが日本への輸入は禁止されています。(BSE 牛海绵状脑膜炎が発覚) バイオエタノール生産量(ブラジルは原料がサトウキビですがアメリカはトウモロコシ)世界最大のカラジャス鉄鋼山の開発にも、日本の資本と技術が投入されています。その埋蔵量は世界の 500 年分と言われている。

地球上の淡水の 20% はブラジルにあります。

イグアスの滝(推量毎分 36 億リットル・川幅 27 km)…イグアスへ行ったらその水量にみんなびっくりします。僕は東京のある会社の会長さんをご案内したのですか水の量を見てその夜興奮して一睡もできなかったそうです。

サッカー優勝回数は 5 回、イタリア 4 回、ドイツ 3 回…



ここで締めくくり…以上説明してきましたように、ブラジルのいろいろな特徴が、国際的な「力」となる時がやってきました。来年(2014 年) はサッカーワールドカップ、その 2 年後の 2016 年にはリオを中心としたオリンピック、2022 年の独立 200 周年と「黄金の 10 年」が続く予定です。移民 100 余年の歴史の中で育まれた日本人への「信頼」という資産をベースに、友好の絆を両国の発展に生かし交流をより深め、関係を深めていかねばならないと思います。資源のほとんどを輸入に依存し、食料の自給率が低い日本にとって、ブラジルが如何に大切な国であるかご理解戴けたでしょうか~

<以下次号へ>



10. 楠 和郎さんのマジックショー

(会員 植松 彬)

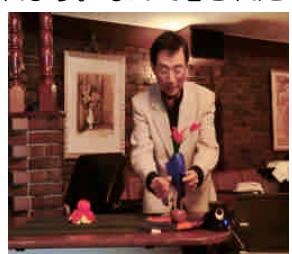
2014.5.15 於ベル・ウッド

この日は昼ごろ小雨が降ってあいにくの天気でしたがショーが始まる頃はよい天気…というよりゆっくりと夕闇が迫っていました。



5時きっかりに関西支部長 阿賀敏雄さんの挨拶でオープン
<阿賀敏雄さんの挨拶>

豊高の1年の時に楠さんと同じクラスになりました
て3つの思い出があるのですが… 1つは藤上先生
が担任で数学の先生だったのですがみんなの前でこ
っぴどく二人が怒られまして…いまだに思い出さ
れます。なんで怒られたのか内容は忘却ましたが… 授業中に二人でしゃべって
いたのですね…高校1年生で友達になったのですか
ら嬉しくて… 怒られたことがいまだに忘れられない
思い出となりました。



2つ目は隣の席の楠さんの弁当にいつも牛肉が入っているのです。昭和32~33
年ですから牛肉の弁当はうちでは年に1~2度ぐらいしか作ってもらえなかっ
たのです。彼の場合は毎日ですよ。それで頭がいいのかなあとひがんだりしていま
した。3つ目は2年3年は楠さんはA組僕はB組で楠さんが一番仲が良かった
のは川上征さんなのです。今日も何十年振りかで来てくれましたけれど、彼と川上さんは成績は優秀だった
のですが、それよりもいつも二人でつるんでダジャレダジャレ…3つ目の思い出です。
いろんな方のお名前を出したいところですが時間がありませんのでこの辺で挨拶を終わります。

<楠 和郎さんのマジックショー>



素人の拙いマジックですが一緒に楽しんでいただけ
ればと思います。休憩の後には5年ほど前からオカリ
ナをやっておりましてその演奏を少しやらせていただきたいと思
います… 初めに花がなくて寂しいので花
を飾ろうかと… 花を出す手品から…



デイサービスとか幼稚園でボランティアマジックをし

ていますが… 卓上の花飾りが出来ました… これまでが定番 オープニングでございます… このあと
トランプを使った手品、ボールペンを札に突き刺す手品、予言のマジックと称するもの、万寿の滴という手品、新聞紙に水を入れる手品、最後にはロープを使った手品等々次々と鮮やかな手品とトークが披露され30人程で埋まった会場からは拍手喝采… ❤️❤️❤️ 途中マジシャンによるオカリナの演奏があり阿賀さんの
オカリナの腕前は? の質問に答えて曰く~初級・中級・上級とございまして苦節5年目でやっと上級となりました。

上級というのはこの程度かと思われたら困るので言わないつもりでしたが…「瀬戸の花嫁」「手のひらを太陽
に」「アダモ 雪が降る」「学生時代」と優しく何とも言えない温かい音色の素敵な演奏に酔いしれあっという
間に予定の1時間が過ぎました。

<阿賀さんからの報告>

伊丹さんがこのマジックショーはプロの方かと聞かれたので、そうではないですよ… 高一の時の友達で
すと答えました… そういうセリフのあったことを報告しておきます… (プロと間違えた人 もいるのです
ね) 終わりに川上征さんから 花束の贈呈❤️ 大拍手!! ここで1首

は

ひね

手品師の技に嵌まりて首かしげ頭 捏るは五月の夕べ

秋良



11. “りらいぶ” サロンのご案内

(“りらいぶ” 塾 塾長 鈴木 信之)



《りらいぶサロン》のご案内

2014年6~8月期

※ご注意 3月より場所が移転しました

現役教師の方、これから教師を目指す方へ…

日本語教師でトクする話

目からウロコの日本語教師活用術

——プレゼンター／ファシリテーター にほんご教育コンサルタント・鈴木信之

年齢、性別、出身校、経歴などを超えて、「日本語教師」という共通テーマのもとに情報交流できる場を作りました。現役日本語教師の方も、養成講座などで勉強中の方も、海外で教えたいという方も、ちょっと興味があるという方も、ぜひお気軽に、何度でもご参加ください。

フリートークではプレゼンターへの質問のほか、参加者同士でお互いの経験や進路のこと、教授法、人間関係、その他話したいことなど気軽に情報交換しましょう。

☆☆☆ 2014年6~8月期の開催 ☆☆☆

6月11日(水)・7月16日(水)・8月20日(水) いずれも18~20時

* サロンは17時より開放中。プレゼンターも来所しています。

●場所 R&I りらいぶサロン ※3月より移転しました。ご注意ください。

(東京都中央区日本橋人形町1-19-9 古暮ビル4F TEL 03-3668-8005) ⇒裏面地図参照

* 東京メトロ日比谷線・都営浅草線「人形町」駅 (A6番口) 徒歩1分

東京メトロ半蔵門線「水天宮前」駅 (8番口) 徒歩5分

●参加費 500円 (サロン運営費としてご協力ください)

*** 《りらいぶサロン》とは *****

自分自身の「生きがい」や「やりがい」を考え始めた人々、あるいは退職・離職などで新たな人生の充実を目指す方が共に集まり、共に考え、共に刺激しあい、それぞれが新たな行動を開始する——。そんなクリエイティブなきっかけづくりの場を提供します。主に退職前後の方を対象に情報提供を行うNPO法人リタイアメント情報センター（R&I）が運営しています。

●お問い合わせ・参加申し込みは…

NPO法人リタイアメント情報センター（R&I）《りらいぶサロン》(担当：鈴木、佐野)

TEL 03-3668-8005 (月・水・金 12~17時とサロン当日のみ)

FAX 03-5643-7346 ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

E-mail appli@retire-info.org ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

■R&I 事務局本部 ■〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14-4F <http://retire-info.org>

◎ 《りらいぶサロン》利用者規約

- ご利用の際はサロン運営費として毎回一人 500円をご負担ください。
- 他の利用者の迷惑にならないよう、マナーを守ってご利用ください。
- サロン利用時間内に限り、酒類を除き、ペットボトル・缶飲料の持ち込みは可能です。ただし、空きボトルなどは各自お持ち帰りください。食事はご遠慮ください。
- 許可なくサロン内でのビジネス勧誘、商品販売などの営業活動はご遠慮ください。
- サロンは図書館内です。飲食しながらの図書館蔵書の閲覧は禁止します。



12. バリコミュニケーション

(会員 平川 龍)



バリコミュニケーション

<http://www3.ocn.ne.jp/~bali/>

第101号
2014年6月発行
PT. Care Resort Bali

パンチャサリ村の

道路工事中のため、朝な夕なに
村内を徒歩で移動していただいている。



中央は舗装されていますが、両脇の溝がこれからです

ガタガタ道でご迷惑をおかけしましたが、州政府から、5年ぶりにケアリゾートのあるパンチャサリ村の道路工事(4.5km)に予算が付き、現在本格的な工事を行っています。一部車の走行が禁止となっており、5月以降にお越しのお客様には、大変ご面倒ですが徒歩で移動していただいている。

その距離約600㍍の道を、村の人達に挨拶し、地元の生活の様子を感じながら歩きました。これが適度な運動になり、自分の足で歩くと、また違った印象が残るようthoughtいました。(編集者)



女性のお客様、思う存分スパ巡りにグルメ！



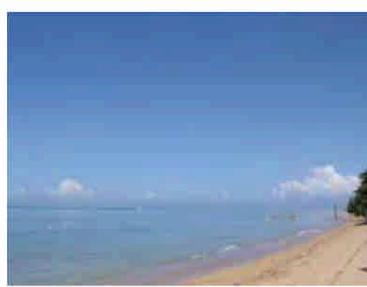
今回の目的は、スパ巡り！というお客様。いつもは他のお客様のアテンドで、なかなかスパのハシゴは難しいのですが、充分満足のゆくスパ体験ができた様子です。ホーム(ケアリゾートバリ)に戻り、レストランでは、好きな食べ物とお酒を注文し、「元」女子達による豪華(?)な晩餐会。料理上手な会員様のご指導もあり、コックの腕も上がっています。次回は何を食べようと、今度来るときの注文まで考えたりして…。

ほどよい疲れとともに帰途につくところ

このたびのバリ訪問、終わってみればスパ三昧でした。滞在4.5日でスパ5ヶ所(フットマッサージ含む、計5時間以上)を巡り、合計で7000円ほど。為替のレートがいいこともあります、比較的リーズナブルな所へ。結果、計画していた訳ではないのですが、非常に身体をいたわることができました。<ご参考>◆フルボディマッサージ:2回計2時間(約4400円)、◆ヘッドスパ:1回1時間(約1600円)、◆フットマッサージ:2回計2時間(990円) ◎特にフットマッサージはお得！1時間念入りに揉んでもらって500～600円。少し痛いですが足がとっても軽くなりました！(編集者)



ボカシマッサージもオススメ！腕はピカイチ！



サヌールにあるこじんまりとした便利なホテル **～Parigata Resort & Spa～**
客室数16の「バリガタリゾート&スパ」という小規模なホテル。サヌールのメイン通りにあるので、買い物や食事にも便利です。小さなプールもあり、いつでもプールサイドでくつろげます。ビーチには歩いて300㍍ほど。人が少なく、ただ海を眺めるだけでも気分転換になるでしょう。予約は、「ホテルトラベル.コム」をご参考に。



プールでのんびりと

◆当記事に関するご意見、お問い合わせは、編集担当の瀬和までお願いします。E-mail: ksewa@pastel.ocn.ne.jp
PT. Care Resort Bali(東京連絡所)〒160-0023 新宿区西新宿8-14-17-303 TEL&FAX: 03-5330-5345



13. ニュージーランド・クライストチャーチ レポート(6月号)

(会員 島村 晴雄)

NZ・クライストチャーチ レポート

<http://www.ccc.govt.nz/>
2014年6月発行・その17



NZにロングステイする上での衣食住は、毎日の生活の中での大きな悩みごとです。

東南アジア諸国でのロングステイと比較して、衣食住ともすべて基本的には割高です。

クライストチャーチ(以降 CHC)でも同様なのですが、生活を工夫することによって、毎日の費用が東南アジア諸国でロングステイするのとあまり変わらなく過ごせることは可能です。

まず住いについては、ホテルやモーテル住いでは非常に割高となりますので、以前NZ旅行記でも紹介しましたが、ホリディ・ハウスという仕組みを利用します。使っていない一軒家や別荘、また大きな家では別棟もっていたりして、これをホリディ・ハウスとして登録し、短期及び長期に貸与する仕組みです。



写真は昨年筆者が CHC で借りたホリディハウスで、1階は家主が住み、別棟になっていた2階部分を借りる。

右の写真はキッチン部分で、手前は居間、奥に寝室、浴室&トイレがある。
場所は CHC 中心部近くにあり、非常に便利、1泊 NZ\$50(約 4,500 円)

ホリディ・ハウスのホームページは以下の通りです。

<http://www.holidayhouses.co.nz/>

インターネットを利用し、借りたい人が登録してある物件を探索し、条件等が合えば直接貸主に簡単な英語メールや電話をし、借りることとなります。

ホテルやモーテルと違い、費用的に安く、通常の家に備え付けられている物はすべて揃っていますので、本当に便利です。



CHC リバトン通りにある
スーパーマーケットの Countdown



Countdown 内に置いてある
日本食材コーナー



でも昼食は自宅で料理するより
NZ でも人気のサーモン館(NZ\$5程度)
等をモールで買って帰り、食べることが
多くありました。

次に毎日の食事となりますが、特に夕食で近くのレストランで食事したり、お酒を飲んでいたのではこちらも非常に割高です。近くにあるモールやスーパーマーケットで肉、魚、野菜、お酒、その他食料品を仕入れて、毎日を過ごせれば食事代の節約になります。NZの主要な町には大手スーパー・チェーンの Countdown があり、日本食品も多く置いてあり、非常に便利です。Countdown のホームページは以下の通りです。

<http://www.countdown.co.nz/>

次に衣服となりますが、もう6月ですがNZは寒いシーズンとなりましたが、この時期に長期滞在の場合、日本から冬物衣類を沢山NZに持っていたのでは、非常に不効率です。CHC には日本同様に古着を扱う大規模な倉庫を店にした古着屋があります。1着 NZ\$3 (約 270 円、NZ\$1 = 90 円換算) から購入出来、使い捨てても出来て非常に便利です。筆者も結構購入し、日本に持ち帰り今でも利用しています。衣食住を節約して、NZロングステイを楽しみましょう。



14. バリ・ロンボクレポート(6月号)

(会員 島村 晴雄)

バリ&ロンボク・レポート

Casablanca HP: <http://w01.tp1.jp/~sr09298639/>
第52号 2014年6月発行



今回はロンボク島の北西側ビーチにある高級リゾート・ホテルの紹介です。

今まで南海岸にあるサーフィンで有名なクタ村にあり、大きなプライベートビーチを持つノボテル・ロンボクと西海岸に面したロンボクで一番の海のリゾート地スンギギにあるスンギギ・ビーチ・ホテル内のプール・ヴィラ・クラブを紹介させていただきましたが、今回は人も少なく本当に静かなビーチにある高級ブティック・ホテルを2つ紹介させていただきます。

1つ目は、ロンボク・ゴルフ・廣済堂CCに隣接しているホテル・トゥグ・ロンボクです。本当に静かな白浜のプライベート・ビーチに面し、ロンボク最高峰リンジャニ山も近くに一望出来ます。恋人同士、またご夫婦で少しリッチなリゾート・ライフを楽しむには素晴らしいホテルです。値段は、1泊1部屋で2~3万円程度で

利用出来ます。

筆者もロンボク滞在時、ゴルフ場には2,3度行っていますが、時々ホテルのレストランでお茶を飲んだりしていますが一度は泊まってみたいホテルです。

ゴルフ場も海に沿った美しい4番ホール、また海に出る眺めの良い8番ホールが



ホテル・トゥグ・ロンボクの左がエントランス付近で
右がレストラン及びレストラン前プール

ありますが、丁度この間のエリアがホテル敷地です。

2つ目は、ホテル・トゥグ・ロンボクがある半島の対岸の半島の先にあるザ・オベロイ・ロンボクです。

こちらはホテル・トゥグより規模が大きなホテルで、色々な施設は勿論ありますが、併設ビーチ・クラブでスキューバダイビングやウインドサーフィン等の海のスポーツも楽しめます。

こちらも現地人が少ない地域につくられているホテルなので、過ごすには非常に静かな雰囲気で、ゆっくりできるリゾートです。

ホテルの海岸は西を向いていますので、海の遠くにバリのアゲン山が望め、今頃の乾季には太陽の位置も良く、サンセットも拝めます。宿泊料金は1泊1部屋で4~6万円程度で利用出来ます。

ロングステイの時は、いつも安ホテルの利用ですが、たまには贅沢して旅の思い出に高級リゾートの利用も良いかと思います。

マリーン・スポーツが満喫できるギリ・メノに一度はお越しください
& Casablanca。

<http://w01.tp1.jp/~sr09298639/> Casablanca
のお問い合わせは、 menocasablanca@gmail.com ^



ホテル・トゥグ・ロンボクの
プライベート・ビーチ
海の先の半島にザ・オベロイ・ロンボクがある



ザ・オベロイ・ロンボク
上がエントランス付近で
下がレストラン前プール付近で
先はバリ海



15. 自費出版図書館便り

(事務局)

- 自費出版図書館 〒103-0013 東京都中央区人形町1-19-9 古暮ビル4F
- 最寄駅 都営浅草線・人形町駅下車 徒歩1分 ●日比谷線・人形町駅下車 徒歩2分
半蔵門線・水天宮駅下車 徒歩5分
- ＜地図＞ http://www.mapion.co.jp/m/35.68270067_139.78544114_10/
- 開館日・時間 月・水・金曜日 12:00~17:00 ※ただし祝祭日、年末年始、お盆は休館。
その他、催し物などで開館時間の変更または休館の場合があります。
- 入館無料ですが貸し出しありません。コピーサービスあり (1枚50円)
- 連絡先 TEL 03-5643-7341 FAX 03-5643-7346
eメール library@ke.main.jp ホームページ <http://library.main.jp>

« 自費出版は、リタイアメント情報センターの活動プロジェクトの1つとして自費出版される方々を始め会員の消費者保護を目的として、活動している主要なプロジェクトのひとつです。また、自費出版図書館は自費出版された書籍を豊富に蔵書する図書館であり、リタイアメント情報センターの法人会員でもあります。自費出版図書館では現在、主に戦争体験をつづった自費出版図書を蒐集しています。自作品のほか、お手元にご友人・知人の作品がございましたら、当図書館までお送りください »

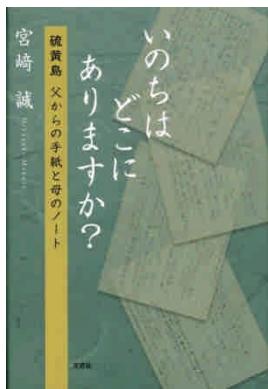
《書評》

『いのちはどこにありますか？ 硫黄島 父からの手紙と母のノート』

宮崎誠著 (文芸社) 1,200円+税

「よく誠ちゃん靖政ちゃんの夢を見ます」

昭和19年の春、著者・誠の父親はそう手紙にしたためていた。当時、まだ子どもだった著者と弟・靖政の2人が仲良く楽しく遊んでいる姿を夢に見る、というのだ。兄弟が遊んでいたのは、のどかな故郷の自宅の庭だろうか。それとも野の花の咲く原っぱだろうか。いずれにしても、夢の中には温かい光に包まれた穏やかな情景が広がっていたことだろう。



だが、父親がいた場所は、そんな夢の世界とはあまりにもかけ離れていた。そこは日本列島のはるか南に位置する第二次世界大戦末期の激戦地、硫黄島だった。

死と隣り合わせの地で、父親が家族にあてて書いた42通の手紙。それを母親がノートに書き写して残していた。著者も母親と同じように、そのノートを書き写したという。本書は手紙を通して父母の愛と命と死と、そして戦争とは何かを考えさせられる一冊だ。

手紙には子どもたちの健康と成長を祈り、身重の妻を気遣う父親の優しさであふれている。出征時は幼かった著者がまもなく小学校に上がる楽しみにしている父親の様子もうかがえる。また、新しくこの世に生まれようとしている子どもに名前を付け、何度もその名で呼んでいる。結局は生まれてからまったく別の名を両親が付けるのだが、「父母のつけた名前が一番いい名前」と言いつつも、文面からは少し残念そうな気持ちがにじみ出ている。

この42通の手紙からは、戦場のすさまじさは伝わってこない。ただ、家族の便りに安心し、新しい命の誕生を喜び、著者が描いて送った一枚の絵が上手だと仲間の兵士たちにほめられ、鼻を高くする。そんな一父親の姿が浮かび上がってくるだけだ。

だが、彼のようなどこにでもいそうな人間が銃を握り、戦場に立ち、ついにはこの父親のように、二度と家族の顔を拝むことのできなかった者は数知れない。これが戦争なのだと、あらためて思い知らされる。